

八女市 水道事業経営戦略

計画期間 令和5年度～令和14年度

概 要 版

令和5年3月
八女市

第1章 はじめに

1-1 八女市水道事業経営戦略策定にあたって

(本編1P)

八女市は、平成2年に八女市上水道事業として水道創設事業の認可を受け、平成5年に給水を開始しました。

平成5年度には、福岡県南広域水道企業団からの浄水受水とし、平成23年度に上陽町の北川内簡易水道事業、平成24年度に立花町水道事業、令和2年度に黒木地区簡易水道事業及び星野地区簡易水道事業の統合、豊岡地区を給水区域へ取り込む拡張と小石原川ダム供用開始に伴い、計画給水人口41,000人、計画1日最大給水量13,401m³/日の規模となり現在に至ります。

今後は、老朽化に伴う施設の更新費用の増大、水需要に伴う料金収入の減少、昨今の世界情勢に伴う物価の高騰等により、経営環境が厳しくなっていくことが予想されるため経営の健全化への取組が求められます。

以上のことから、本市水道事業の現況分析や将来の見通し及び投資財政計画の策定を行い、将来にわたって安定的に事業を継続していくため経営戦略を策定しました。

1-2 八女市水道事業経営戦略の位置づけ

(本編2P)

本経営戦略は、国が示す「新水道ビジョン」、福岡県が示す「福岡県水道ビジョン」及び、上位計画である「八女市第5次総合計画」の内容等を踏まえ、市で策定した「水道施設耐震化・更新計画」、「八女市水道ビジョン」、「アセットマネジメント計画」の考え方や結果を反映し策定します。

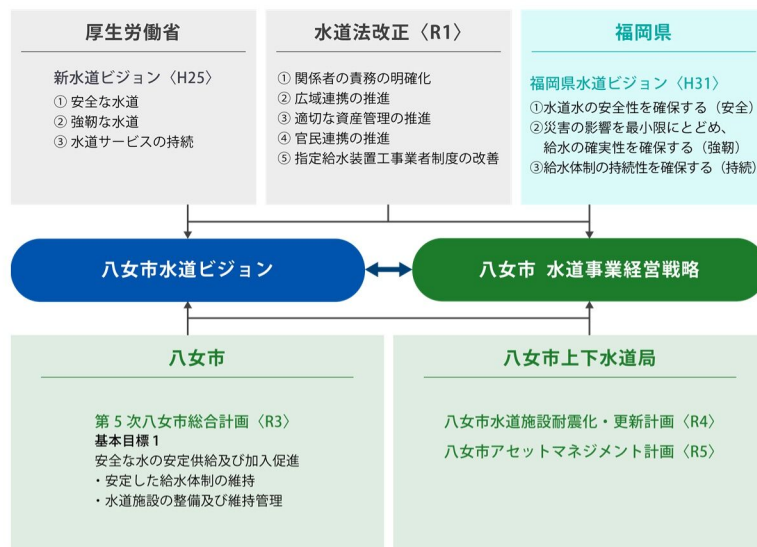


図1-1 本経営戦略の位置づけ

1-3 八女市水道事業経営戦略の計画期間

(本編2P)

国が示す『経営戦略策定ガイドライン 改定版』において「経営戦略の計画期間は10年以上を基本として設定すべきであり、事業の特性、個々の団体・事業の普及状況、施設の老朽化状況、経営状況等を踏まえて、10年以上の合理的な期間を設定することが必要である」という記載があります。以上より、本経営戦略の計画期間は令和5年度から令和14年度までの10年間とします。

第2章 事業概要

2-1 事業の概況

(本編3-4P)

八女市は、平成5年4月1日より給水を開始し、福岡県南広域水道企業団からの浄水受水とし、黒木地区、星野地区等の簡易水道事業を統合し、計画給水人口41,000人、計画1日最大給水量13,401m³/日の規模で事業を行っています。

表2-1 事業概要

項目	八女市水道事業
給水開始年月日	平成5年4月1日
法適・非適の区分	法適
計画給水人口	41,000人
現在給水人口	39,987人
有収水量密度	0.53 千 m ³ /ha
給水区域面積	59.49km ²
年間有収水量	3,179 千 m ³

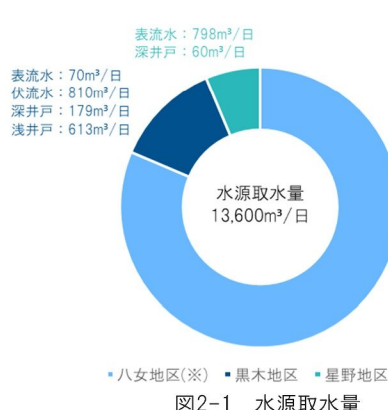


図2-1 水源取水量

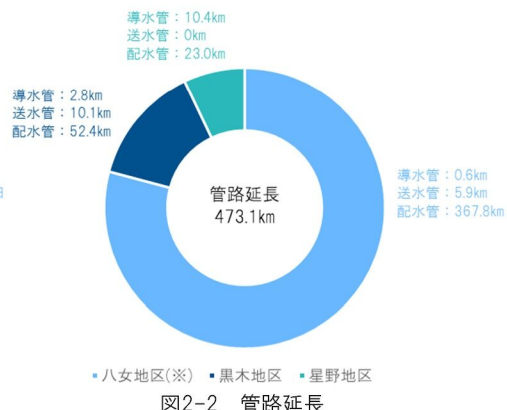


図2-2 管路延長

2-2 料金体系と水準

(本編7-8P)

本市水道料金は、基本料金と超過料金からなる二部料金制です。

なお、料金体系については、平成5年4月1日に八女市水道事業を創設して以降、料金改定は行っておりません。

上水道における1ヶ月当たりの家庭用料金（20m³当たり）は、福岡県内の平均値より高く、さらに福岡県筑後地区広域圏内では、最も高い料金となっています。

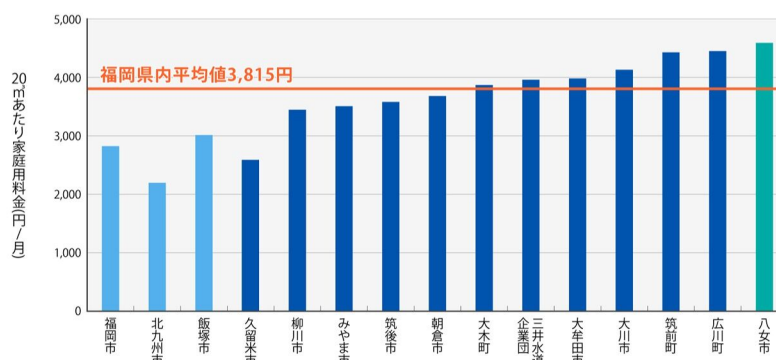


図2-3 県内水道事業家庭用料金（20m³当たり）（単位：円、消費税込）

2-3 経営比較分析

(本編10-14P)

本市水道事業の経営状況について、令和2年度の決算値を用いて、経営および施設の状況を表す経営指標により分析を以下にまとめます。

表2-2 経営比較

経営指標	八女市	類似団体	全国平均	備考
【経営の健全性・効率性を示す指標】				
a) 経常収支比率 (%)	107.75	108.83	110.27	高い値ほど良好
b) 累積欠損金比率 (%)	0.00	4.34	1.15	0%であること
c) 流動比率 (%)	458.34	327.77	260.31	高い値ほど良好
d) 企業債残高対給水収益比率 (%)	274.82	397.10	275.67	低い値ほど良好
e) 料金回収率 (%)	107.06	95.79	100.05	高い値ほど良好
f) 給水原価 (円)	216.85	171.13	166.40	低い値ほど良好
g) 施設利用率 (%)	72.14	60.12	60.69	高い値が望まれる
h) 有収率 (%)	90.49	84.24	89.82	高い値ほど良好
【老朽化の状況を示す指標】				
a) 有形固定資産減価償却率 (%)	37.02	48.83	50.19	低い値ほど良好
b) 管路経年化率 (%)	0.00	18.18	20.63	低い値ほど良好
c) 管路更新率 (%)	0.08	0.57	0.69	高い値ほど良好

第3章 将来の事業環境の予測

3-1 人口動態及び水需要の予測

(本編15-18P)

本市水道事業の給水人口は令和3年度の実績値39,987人から令和14年度には36,846人まで減少する見込みです。また、有収水量は、令和3年度の実績値8,710m³/日から令和14年度には9,171m³/日まで増加する見込みです。

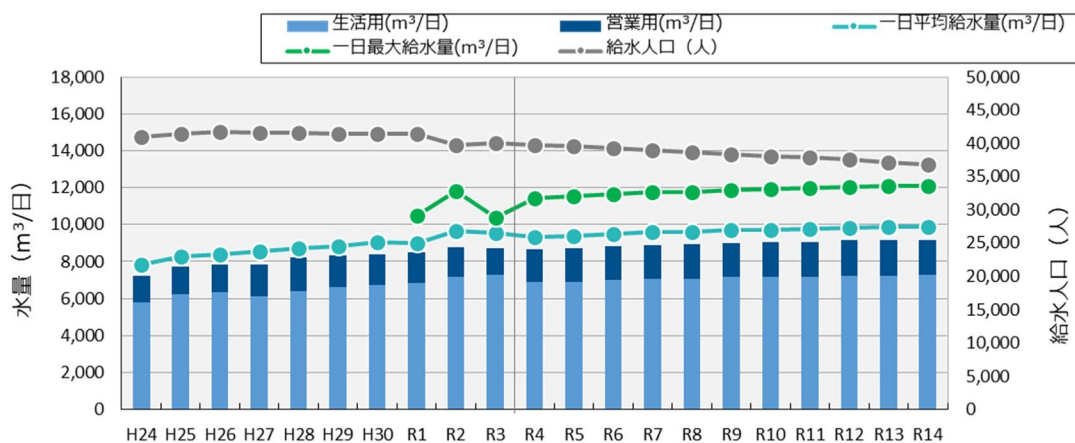


図3-1 水需要の推移

3-2 料金収入の見通し

(本編19P)

本市水道事業の給水収益は、簡易水道事業の統合により令和2年度で増加し、今後は有収水量が増加傾向になるため、令和13年度まで増加する見込みです。

なお、料金収入の予測は、有収水量に令和4年度の給水単価実績と同程度の値を乗じて算出しました。令和4年度の値は、実績見込み値としています。

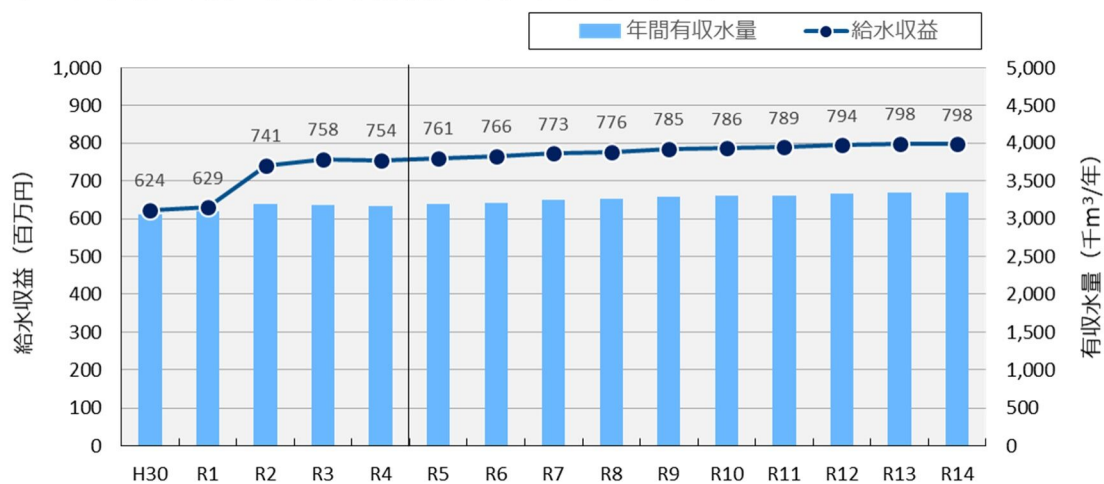


図3-2 料金収入の見通し

3-3 施設の見通し

(本編20-21P)

本市における構造物及び設備について、健全資産^{◆1}は80.8%、経年化資産^{◆2}は6.0%、老朽化資産^{◆3}は13.2%と、現時点では健全資産が大部分を占めています。管路については、健全管路は89.6%、経年化管理路は10.4%、老朽化管理路は0.04%で、現時点では健全管路の割合が多くなっています。

しかし、構造物及び設備において、15年後には健全資産が50%を下回り、資産の半分以上が経年化、老朽化資産となり、また、管路においては、20年後に健全管路が50%を下回り、40年後には半分以上が老朽化管理路となってしまうと見込まれます。

- ◆1：健全資産、健全管路：法定耐用年数以内の資産および管路
- ◆2：経年化資産、経年化管理路：法定耐用年数の1.0～1.5倍の資産および管路
- ◆3：老朽化資産、老朽化管理路：法定耐用年数の1.5倍を超える資産および管路

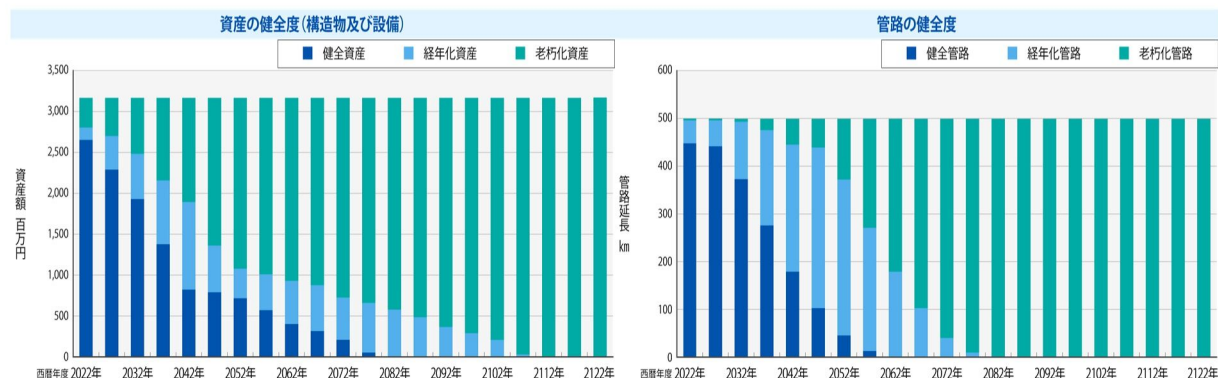


図3-3 構造物及び設備、管路の老朽度合（全体）

第4章 経営の基本方針

4-1 水道の理想像と目標設定

(本編23P)

新水道ビジョンで掲げられている水道の理想像を実現すべく、水道水の安全の確保「安全」、確実な給水の確保「強靱」、供給体制の持続性「持続」の確保が必要です。

本市経営戦略では、八女市水道ビジョンに掲げた『未来へつなぐ安全な水道水』を本市水道事業の理想像とし、今後の課題に対する施策や目標を設定します。



図4-1 水道の理想像（出典：新水道ビジョン、平成25年3月、厚生労働省健康局）



図4-2 本市水道の理想像

4-2 実現方策の体系

(本編24P)

基本目標と実現方策をまとめたものを下表に示します。

表4-1 施策体系表

基本方針	基本目標	実現方策
安全	水質管理の充実	・ 水質検査の精度管理の検討 ・ 水安全計画の作成
	給水水質の向上	・ 指定給水装置工事業者に対する指導 ・ 貯水槽水道設置者に対する指導の徹底
持続	施設の適正化	・ 施設規模の適正化 ・ 修繕計画の作成
	経営の適正化	・ 料金制度の最適化 ・ 内部研修・外部研修への積極的参加
	経営基盤の強化	・ 豊岡地区の水道施設整備
強靱	地震に強い水道の構築	・ 施設の更新・耐震化 ・ 管路の更新・耐震化
	災害対応力の向上	・ 自家発電設備の整備
		・ 応急給水体制の強化 ・ 危機管理マニュアルの充実

第5章 投資・財政計画

5-1 投資目標

(本編27,31-36P)

【目標】

a)豊岡地区整備事業

福岡県南広域水道企業団からの受水量の増加に伴い、市としても公衆衛生の向上と福祉の増進、生活の安定及び地域の発展を目的とし令和2年度から令和5年度にかけて配水池等の築造工事及び管路の延伸工事を実施しています。

b)構造物・施設、管路の更新

今後、構造物・設備、管路について老朽化する資産が増えていき、これらが一斉に更新時期を迎え事業費が膨らむことを防ぐため、令和3年度に「水道施設耐震化・更新計画」、令和4年度に「アセットマネジメント計画」を策定しました。本市水道事業の財政が悪化に転じることがないように財政状況を踏まえたうえで、上記計画の考え方にに基づき計画的な更新を行っていき、本来必要な更新需要に対して工事を実施できない分については、適宜維持修繕を行うことで対処していきます。

5-2 財源目標

(本編28-30P)

【目標】

財源は主に料金収入を基本とし、一般会計からの繰入、国庫補助金等適宜検討します。また、企業債は工事費の70%を見込むこととし、料金改定については計画期間内では実施しませんが、適宜検討します。

5-3 収支計画のシミュレーション結果

(本編25-26P)

本経営戦略の投資・財政計画について、投資目標及び財源目標を達成できるような収支計画を立てシミュレーションした結果、経常損益は黒字で推移していき、内部留保資金は令和14年度で4.6億円程度確保できる見込みとなりました。しかし、内部留保資金については現況に比べると減少していく見込みであるため、経営戦略の事後検証等で適宜見直しを行い、適切な事業費や企業債の借入額等について検討します。

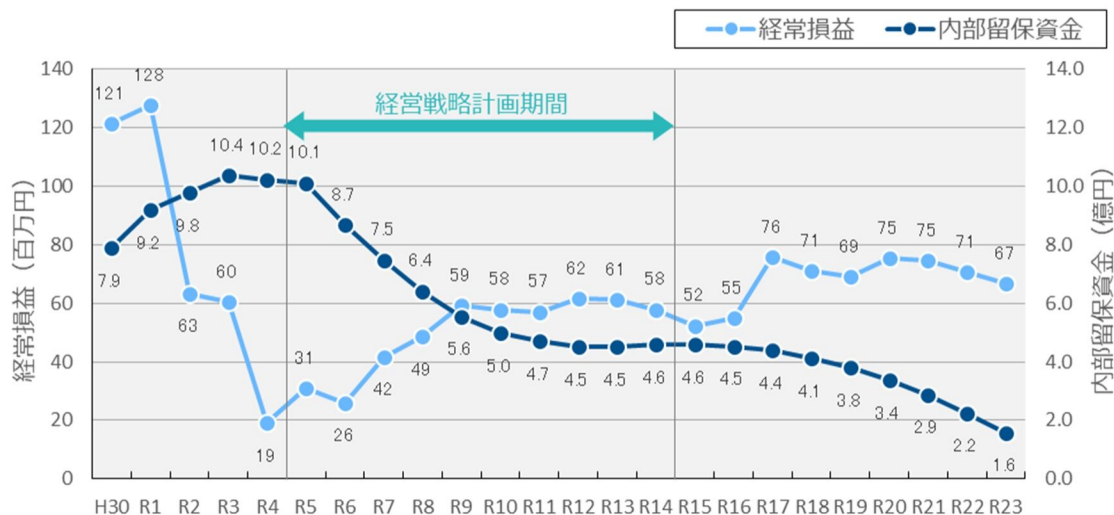


図5-1 経常損益及び内部留保資金の見通し



八女市上下水道局

〒834-8585 福岡県八女市本町 647
TEL 0943-23-1949
0943-23-1107